

ビオトープ・イタンキ通信 第4号

NPO 法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭 2013 年 7 月 1 日

NPO 法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭では「ホテル再び、人にやさしい街・室蘭」を合い言葉にビオトープ作りを進めています。原始のままの海岸線、鳴り砂の浜に続く草原の一角に、今は失われてしまった湿地を復元し、子供たちが生き物と触れ合える場の再生を目指しています。

◆ビオトープ・イタンキ活動開始

雪もすっかり消えたビオトープ・イタンキで、3月17日(日)に春の清掃活動を行いました。軍手を持って、長靴をはいた会員11名が集まり、午前9時から2時間ほどかけて、ビオトープ・イタンキ周辺のゴミを拾いました。大きなものは浮きのような漁具や作業ズボン、小さなものはゴルフボールまで、軽トラック1台分も集まりました。ビオトープ・イタンキに直接捨てられたゴミよりも、周辺の駐車場などから風で飛ばされてきたビニール類が多かったようです。

エゾアカガエルの産卵もピークを過ぎた4月14日(日)に、今年最初の植樹会を開催しました。会員9名の他、輪西青年経営研究会や室蘭工大生などの応援もあり、ビオトープ東側植樹帯の浜側に120本のミヤマハンノキ、カシワ、エゾノコリンゴの苗木を植樹しました。一辺が1.5mほどの三角形の頂点位置に穴を掘り、同じ種類の苗木が隣り合わないよう、と意識しながら植樹しました。いざ地面を掘ってみると、大きな石があつて植樹に適していないなど、思うようには植えられませんでした。



木々の新芽が芽吹きだした5月18日(日)に、2回目の植樹会を開催し、120本の苗木を植樹帯の山側へと植えました。今年でビオトープ東側植樹帯への植樹がほぼ完了です。

